

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	はびたむkids		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様の話を重視し、利用者様・保護者様のニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画書が作成されている。	日々の記録に個別支援計画書をはさみ、常に支援の内容を確認できるようにし、利用者様の声や様子を細かく書き、継続なのか達成なのかを見極め次の個別支援計画書に活かせるように工夫している。	保護者様だけではなく、関係機関との連携を図り、情報共有や支援の統一に努め、利用者様一人ひとりの課題に適した個別支援計画書を作成していきます。
2	利用者様が安心感や楽しく通所している。	毎日笑顔で出迎え、ご利用者様の様子を見ながら、課題の変更をして、楽しく、にこにこで活動出来るように意識している。集団活動に参加しにくい児童に関しては、同じ空間で見学し無理のないようにしている。	課題の中で、役割を一人ひとりに割り振る工夫をしています。
3	個々に合わせた個別課題	一人ひとりの発達段階を細かくアセスメントして「できた」という自信を育む個別課題の設定をしている。	興味を示すような教材の工夫をしています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内での避難訓練はできているが、近隣住民や町内会との災害時における相互体制が出来ていない。	地域の防災訓練への参加やクリーン作戦への参加で顔の見える関係作り。	非常時にお子様の特性を理解してもらえる仕組み作り。
2	支援開始前の職員間のその日の打ち合わせを行うのが難しい。	送迎業務や準備時間により、口頭伝達に頼る場面が多い。情報の濃淡が生じやすい。	SNSを活用してリアルタイムな情報共有の工夫作り。
3	きょうだい同士の交流がない。送迎時など顔を合わせる機会はあるが、事業所での交流の場を設けられていない。	イベント時ごきょうだいがいるご家族様は参加をしてくださっていますが、ほんの一部の為、きょうだいでのイベントの開催の検討。	ハイキングや一緒にやれるスポーツなどもを計画し保護者様とごきょうだい同士でも話が出る、環境を設定し、お話の出る場づくりを出来るように考えていきます。